

病院事業庁の基本方針に対する評価

（令和 5 年度年度末）

病院事業庁の基本方針に対する評価

高度で安全な医療を提供する		評価	A
令和5年度の 取組および 評価と課題、 今後の対応	◎令和5年度の取組および評価		
	・総合病院では、腫瘍内科の新設等がん診療の充実や断らない救急体制の整備等により医療機能を強化し、地域の医療機関との機能分化や災害拠点病院やDMAT指定医療機関の指定を目指した職員の育成等、地域で求められる役割を果たせるよう努めてきた。 ・小児保健医療センターでは、一般病院では対応困難な難治・慢性疾患の子どもを中心に、全県型の高度専門医療を提供した。また、令和5年11月にHCU病床の運用を開始し、重症化や急変リスクのある患者に対し高度な治療を提供できるようになった。 ・精神医療センターにおいては、依存症治療における地域の医療機関との連携や、思春期精神障害における学校や相談機関との連携、能登半島地震におけるDPATの派遣等、地域との連携や協力に取り組むことができた。また、精神科救急医療の受け皿として、24時間365日対応可能な病床管理に努めた。このほか、令和5年10月に精神科専門医研修施設群基幹施設の認定を受け、研修プログラムに基づく専攻医を1名採用した。 ・新型コロナウイルス感染症への対応については、令和5年5月で5類感染症へ移行した後も、各病院では新型コロナウイルス感染症患者の入院を引き続き受け入れてきた。また、総合病院においては、令和5年度からコロナ後遺症外来を設置し、後遺症のある患者に対する治療を提供した。 ・このように、県立病院として高度・専門医療や政策医療を着実に提供するとともに、患者満足度についても目標を達成でき、県民が望む質の高い医療を提供することができたと考えており、令和5年度の取組に対する評価をA評価とする。		
	◎課題、今後の対応		
	・県立病院として引き続き高度医療や専門医療を提供しつつ、新興感染症の対応や災害対応等を含む政策医療や、県民のニーズの高い医療に対して対応ができるよう努める。 ・総合病院では、地域の医療機関との機能分化・連携をさらに強化するとともに、医療安全をさらに徹底できるよう研修の受講やインシデント・アクシデント報告の徹底に努める。 ・令和7年1月に小児保健医療センターと総合病院の統合を予定しており、これまで小児保健医療センターが担ってきた小児専門医療の提供体制を充実・強化できるよう整備する必要がある。 ・精神医療センターにおいては、常勤医師の不足により外来患者の待ち期間が長期化しており、大学病院との連携や研修プログラムで受け入れた医師の定着等により常勤医師の確保に努める。		

各指標の達成度

指標		令和4年度 実績	年次目標(上段)・年次実績(下段)					達成状況	達成度
			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
入院 患者満足度(%)	総合病院	91.7%	91.3%	92.0%	92.0%	92.0%	92.0%	達成 (+0.0%)	A
			91.3%						
	小児保健医療センター	89.5%	97.0%	97.0%	97.0%	97.0%	97.0%	達成 (+0.0%)	A
			97.0%						
	精神医療センター 第1病棟・第2病棟	72.3%	70.0%	70.5%	71.0%	71.0%	71.0%	達成 (+1.8%)	A
			71.8%						
	精神医療センター 第3病棟	73.2%	72.8%	73.5%	74.0%	74.0%	74.0%	達成 (+0.0%)	A
			72.8%						
外来 患者満足度(%)	総合病院	79.3%	80.9%	82.0%	82.0%	82.0%	82.0%	達成 (+0.0%)	A
			80.9%						
	小児保健医療センター	87.8%	90.4%	91.0%	91.0%	91.5%	91.5%	達成 (+0.0%)	A
			90.4%						
	精神医療センター	80.4%	77.5%	78.0%	78.5%	78.5%	78.5%	達成 (+2.9%)	A
			80.4%						

関連する重点目標の達成度

所属	重点目標	達成度
総合病院	診療連携の強化による更なる高度急性期・専門医療の提供	A
	患者や地域医療機関から信頼される地域に根差した病院	A
小児保健医療センター	診療連携の強化による更なる高度急性期・専門医療の提供	A
	患者や地域医療機関から信頼される地域に根差した病院	A
精神医療センター	保健・福祉を統合した科学的な医療と看護	B
	文化に根差した患者本位の社会復帰	A
	信頼と協働による地域連携	A
経営管理課	病院説明会や実習受入、学校訪問等による医療人材の確保	B

患者に寄り添う心と、仕事への誇りを持ち続ける	評価	A
令和5年度の 取組および 評価と課題、 今後の対応	◎令和5年度の取組および評価 ・職員満足度については、患者へ寄り添い貢献できている実感や、仕事に対する誇りを持つという2つの設問において、目標を上回る結果となった。高度・安全な医療の提供により患者の命と健康を守ることに関与できていることを実感している職員が多いことや、地域への連携等を通じて社会への貢献も行うことができたため、職員満足度が昨年度の実績や目標値よりも高くなったと考える。 ・総合病院では、インシデント・アクシデント報告の推進等による医療事故の防止や、患者へ適切な医療を提供するための在院日数短縮のための診療科への情報提供、診療所との連携強化等、患者への配慮や地域との連携に取り組んできた。 ・小児保健医療センターにおいて、県内医療機関へのパンフレットの配布等を通じて紹介率の向上を図ることができた。 ・精神医療センターでは、依存症専門医療機関として専門診療や外来集団精神プログラム等を実施するとともに、通院患者を対象にデイケアプログラムを提供することで、患者の地域移行に貢献することができた。 ・職員が患者に寄り添った医療を提供できるよう心掛けることができ、政策的な医療や地域の医療機関と連携した取り組みを進めることができていることから、令和5年度の取組に対する評価をA評価とする。	
	◎課題、今後の対応 ・更なる職員満足度の向上のため、患者に最適な高度・専門医療を提供し続けるとともに、患者の地域の医療機関や施設、相談機関等との連携をさらに進め、患者に寄り添った医療の提供に努める。 ・また、職員が誇りを持って仕事に取り組めるように、人材確保や働き方改革等による職場環境の改善、研修や職場での指導を通じた専門スキルの向上に向けた取り組みを推進する。 ・総合病院では、接遇研修の利活用、スタッフ間の声掛け等、患者目線のきめ細やかな対応ができるよう職員の研鑽に努める。 ・令和7年1月の総合病院と小児保健医療センターの統合を通じて、小児患者に対する医療の充実を図り、より患者に対して適切な医療を提供できるよう体制を整備する。 ・精神医療センターにおいて、ギャンブル依存症の治療プログラムで利用者が急増しており、看護外来部門の体制の段階的強化などを計画的に対応していく必要がある。	

各指標の達成度

指標	令和4年度 実績	年次目標(上段)・年次実績(下段)					達成状況	達成度
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
職員満足度(患者に喜んでもらえていると感じている職員の割合)(%)	71.4%	72.0%	73.0%	74.0%	75.0%	76.0%	達成 (+3.3%)	A
		75.2%						
職員満足度(仕事に充実感や達成感、誇りを感じている割合)(%)	74.5%	75.0%	76.0%	77.0%	78.0%	79.0%	達成 (+1.8%)	A
		76.8%						

関連する重点目標の達成度

所属	重点目標	達成度
総合病院	診療連携の強化による更なる高度急性期・専門医療の提供	A
	患者や地域医療機関から信頼される地域に根差した病院	A
小児保健医療センター	診療連携の強化による更なる高度急性期・専門医療の提供	A
	患者や地域医療機関から信頼される地域に根差した病院	A
精神医療センター	保健・福祉を統合した科学的な医療と看護	A
経営管理課	職場環境の向上	B
	職員のスキルや意識の向上	B

持続可能な経営基盤を確立する	評価	B
令和5年度の 取組および 評価と課題、 今後の対応	◎令和5年度の取組および評価	
	(1)各県立病院の取組状況 ・総合病院では、紹介患者の増加や救急搬送の受入拡大、診療単価の上昇等により、医業収益が前年度に比べて12億円以上増加している。 ・小児保健医療センターにおいては、専門外来の充実に伴う外来患者の増加や、令和5年11月のHCU病床の稼働開始、業務の効率化に伴う時間外勤務時間数の縮減等により、3年連続の黒字を確保できた。 ・精神医療センターでは病床稼働率は上昇したものの、医療観察法病棟の病床稼働率の低下や人件費の増加等により前年度より経常収支比率は低下した。 (2)全体の評価 ・令和5年5月をもって5類感染症に新型コロナウイルス感染症が移行したことに伴い、各病院において入院・外来患者数、病床稼働率等が新型コロナ前の水準まで回復していないものの、県立病院全体の入院収益・外来収益は過去最大となった。 ・一方で新型コロナウイルス病床確保事業費補助金が減額となったことや、人件費や薬品費、診療材料費は上昇していることから、病院事業庁全体の経常収支は7億8千万円の赤字に転ずることとなった。 ・計画に定める目標を達成した指標は多いものの、経営の持続可能性を確保するためにも、収支改善や資金状況の改善等の課題も多いことから、令和5年度の取組に対する評価をB評価とする。	
	◎課題、今後の対応	
	・病院事業庁全体の当年度純損失は7億8千万円を計上し、今後の人件費の上昇等を踏まえると厳しい状況が続く見込みである。各病院において、病床稼働率の向上等の更なる収益の確保や、材料費等の費用の削減の取り組みを推進する必要がある。 ・自己資本構成比率が前年度から低下しており、資金状況は依然として厳しい状況にあり、収支の改善等を通じて運転資金の安定的確保に努めていく必要がある。 ・そのためには、いずれの県立病院においても病床稼働率を更なる向上等に取り組む必要がある。 ・総合病院においては、紹介患者の更なる増加や救急患者の積極的受入れ等により病床稼働率の向上を図る。また、働き方改革の推進や価格交渉等による材料費の削減等により収支改善を図る。 ・小児保健医療センターでは、入院患者数が新型コロナウイルス感染症の流行前と比較して低い状況にあり、患者ニーズの高い診療分野の充実や検査入院の促進等を通じて入院患者の増加を図る。 ・精神医療センターにおいては、診療収益の確保に向けて、効率的・きめ細かなな病床運用による病床稼働率の向上や、地域の医療機関等との連携強化による新規入院患者の増加に努める。	

各指標の達成度

指標	令和4年度 実績	年次目標(上段)・年次実績(下段)					達成状況	達成度
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
経常収支比率(%)	106.8%	94.2%	97.2%	98.0%	99.1%	100.9%	達成 (+2.8%)	A
		97.0%						
修正医業収支比率(%)	76.4%	76.3%	83.9%	84.4%	85.4%	85.6%	達成 (+2.2%)	A
		78.5%						
自己資本構成比率(%)	17.3%	前年度比増	前年度比増	前年度比増	前年度比増	前年度比増	未達成 (-2.1%)	B
		15.2%						

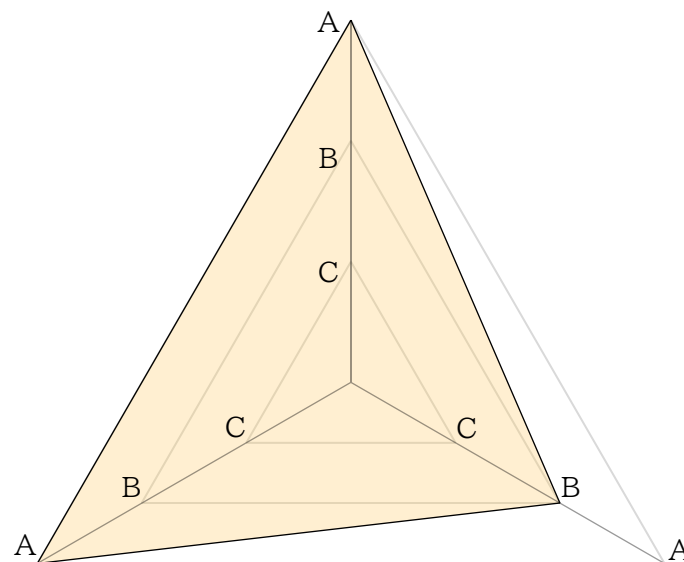
関連する重点目標の達成度

所属	重点目標	達成度
総合病院	健全な病院経営の持続可能な基盤体制の確立	B
小児保健医療 センター	健全な病院経営の持続可能な基盤体制の確立	A
精神医療 センター	健全で効率的な運営	A
経営管理課	経営健全化対策の推進	A

全体評価

高度で安全な医療を提供する	評価	A
患者に寄り添う心と、仕事への誇りを持ち続ける	評価	A
持続可能な経営基盤を確立する	評価	B

高度で安全な医療を提供する



患者に寄り添う心と、
仕事への誇りを持ち続ける

持続可能な
経営基盤を確立する